

発生概要

◆令和8年8月末 電話でお金詐欺(特殊詐欺)被害認知件数・被害額 前年同期比(暫定値)

区 分		令和7年中		令和7年8月末		令和8年8月末		前年同期比			
		件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	増減率	被害額(円)	増減率
電話でお金詐欺(特殊詐欺)合計		454	3,849,463,344 (25,150,000)	268	2,167,502,473 (18,335,000)	372	2,698,857,580 (35,730,000)	104	38.8%	531,355,107 (17,395,000)	24.5% (94.9%)
内 訳	ニセ警察詐欺	120	1,242,896,351 (8,357,000)	63	539,303,313 (8,357,000)	77	863,871,615 (20,000,000)	14	22.2%	324,568,302 (11,643,000)	60.2% (139.3%)
	オレオレ詐欺	15	86,000,000 (1,000,000)	11	61,600,000 (1,000,000)	67	143,974,911 (2,089,000)	56	509.1%	82,374,911 (1,089,000)	133.7% (108.9%)
	預貯金詐欺	7	13,145,000 (13,145,000)	5	6,330,000 (6,330,000)	4	3,537,000 (3,537,000)	-1	-20.0%	-2,793,000 (-2,793,000)	-44.1% (-44.1%)
	キャッシュカード詐欺盗	5	2,648,000 (2,648,000)	5	2,648,000 (2,648,000)	7	10,104,000 (10,104,000)	2	40.0%	7,456,000 (7,456,000)	281.6% (281.6%)
	架空料金請求詐欺	76	241,231,172	47	163,877,137	50	99,685,396	3	6.4%	-64,191,741	-39.2%
	還付金詐欺	17	20,142,135	13	12,209,089	10	13,323,743	-3	-23.1%	1,114,654	9.1%
	融資保証金詐欺	7	3,175,182	7	3,175,182	6	3,085,000	-1	-14.3%	-90,182	-2.8%
	金融商品詐欺	11	64,624,498	9	54,421,736	7	45,921,002	-2	-22.2%	-8,500,734	-15.6%
	ギャンブル詐欺										
	交際あっせん詐欺	12	52,722,549	8	28,640,845	7	11,422,599	-1	-12.5%	-17,218,246	-60.1%
	SNS型投資詐欺	75	1,032,023,700	33	436,088,951	73	911,444,825	40	121.2%	475,355,874	109.0%
	SNS型ロマンス詐欺	103	1,083,448,187	63	853,953,050	62	581,885,489	-1	-1.6%	-272,067,561	-31.9%
	その他の特殊詐欺	6	7,406,570	4	5,255,170	2	10,602,000	-2	-50.0%	5,346,830	101.7%

※下段括弧内は、被害品のキャッシュカードを使用して、犯人が払出した金額等（内数）。
※令和8年4月から、ニセ警察詐欺をオレオレ詐欺から独立した手口として位置付けたほか、SNS型投資・ロマンス詐欺を電話でお金詐欺（特殊詐欺）の一手口と位置付け、これら全体を電話でお金詐欺（特殊詐欺）として整理しています。

【認知状況】 ※1万円未満切り捨て

- 8月末までの認知件数は372件（前年同期比＋104件）、被害額は26億9,885万円（前年同期比＋5億3,135万円）、1件当たりの被害額は725万円（前年同期比－83万円）であり、被害件数・被害額ともに増加した。
- 8月末時点で発生が多い手口はニセ警察詐欺が77件、SNS型投資詐欺が73件、オレオレ詐欺が67件、SNS型ロマンス詐欺が62件であった。
- 犯人からの接触方法は、電話が173件、SNSが159件、ウェブサイトが27件、電子メールが13件であり、接触方法が多様化している。
- 7月以降、オレオレ詐欺の増加が顕著で、8月単月で令和7年中の被害総数15件と比較して3倍以上となる46件の被害を認知しており、8月末までの累計は67件（前年同期比＋56件）にのぼるなど、危機的状況である。
- オレオレ詐欺において、犯人が最初に名のった身分は息子や孫等の親族が57件、医療機関が4件、暗号資産交換業者と金融機関がそれぞれ3件であった。
医療機関と金融機関については、いずれも息子等の親族を名のる者に電話がつながるものであり、最終的に息子や孫等の親族を名のる手口が全体の9割以上を占めた。
息子等の親族を名のる手口の約8割は実名を名のっていることから、何らかの名簿に基づいて架電している実態が認められる。
また、事前に「同窓会の通知が届いていないか」「近々、実家に帰省する」等と架電して、だますることが可能かどうか選別している状況も確認されている。
- オレオレ詐欺における犯人からの接触方法は、64件（95.5%）が固定電話であり、犯行に利用された電話番号として判明している13件中6件（46.2%）が国際電話番号であった。